



厚生専門学院の学生にサポートされながら馬と触れ合うカレッジ生(4面に関連記事)



CONTENTS

- P2 南愛媛病院・療育センターが20周年
- P3 アートギャラリー展 受賞作品決まる
- P6 大学学園祭で「ふくのいち」
- P7 安全・安心な「ひらたの杜」に CFに挑戦

旭川荘 だより

vol.

277

2024.1.1 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<https://www.asahigawasou.or.jp>



特注干支飾りが完成し、笑顔を見せるあおばの利用者(6面に関連記事)



旭川荘の新たな展開に向けて

理事長 神崎 晋

2024(令和6)年の幕が開け、皆様の益々のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

昨年までの3年間は新型コロナウイルスのために旭川荘もその活動に大きな制約を受け、利用者の皆様に多大なご迷惑をおかけしました。昨年5月に新型コロナは5類感染症へ引き下げられ、多くの制限は現在解消されております。

また昨年6月には理事長が末光茂現名誉理事長から神崎へと変わりました。新執行部は発足してまだ半年ですが、新しい分野への挑戦と風通しの良い職場環境の構築を目指しております。

2年続いた赤字決算は職員の努力により本年度は黒字決算になると思います。さらに足腰の強い旭川荘を目指して、重症心身障害のある方々への在宅医療・訪問診療、あるいは医療機関や他団体との連携による強度行動障害への積極的な対応など、社会が求める新しい分

野へ展開していきます。旭川荘に停滞をもたらした新型コロナの3年間で、大きなジャンプをする前に腰を一度落とす時期であった、と後に言われるようにしたいものです。

大きな変革を行うとき、職員あるいは利用者の皆様に大きなご負担がかかります。昨年発覚した「ダイハツ」の不正は「過度に短い開発日程が設定され、変更もきかず担当者にプレッシャーがかかっていた。経営陣らが現場の負担を把握せず、困った時に声を上げられない職場環境を放置してきた」とされております。風通しの良い職場環境の構築は不可欠です。

2024年は「甲辰^{きのえと}」です。「甲」は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味します。「辰」は草木が伸び、形が整い、活気にあふれている様子を表します。「甲辰」の本年は、これからの成長をさらに形作っていく年だといえるでしょう。この象徴的な年に、旭川荘も一層の飛躍と進展が期待されます。

旭川荘南愛媛病院・南愛媛療育センター 開設20周年記念式

旭川荘南愛媛病院・南愛媛療育センターは、国から移譲を受けて開設後20周年を迎え、12月6日に記念式を行いました。

記念式には役職員など約30人が出席。末光茂名誉理事長が2022年2月に完成した新病棟について触れ「たくさんの人の努力によって新病棟が完成しました。このご恩を忘れずにこれからも頑張ってください」と話し、藤井千穂名誉院長も「この地域には南愛媛病院にしか小児科がなく、住民にとってなくてはならない病院になっています」と職員を激励しました。

続いて神崎晋理事長から旭川荘勤続20年を迎えた5人の職員に表彰盾と記念品が贈られました。また南愛媛病院・南愛媛療育センター独自の表彰として、勤続20年となる現在再雇用の職員など8人にも表彰盾と記念品が岡部健一院長より手渡されました。

両施設の前身、国立療養所南愛媛病院は、国立病院・療養所の再編計画により2003(平成15)年12月、国から旭川荘へ移譲。旭川荘南愛媛病院・南愛媛療育センターとして南予一円を診療圏に、地域に密着した医療福祉サービスを提供しています。

(広報委員 青儀修平)



職員を激励する末光名誉理事長



勤続20年の職員に表彰盾を贈る神崎理事長

第14回旭川荘アートギャラリー展 受賞作品決まる



賞状を持って記念撮影をする受賞者ら

「第14回旭川荘アートギャラリー展」の表彰式を12月14日に行いました。今回は荘内18施設の190人から延べ398点の応募があり、審査の結果以下の5賞と特選作品11点が選ばれました。5賞のうち「清水やそし賞」は、長年アートギャラリーの運営にご尽力いただき昨年6月に亡くなった名誉館長の清水やそしさんのご貢献に感謝し、これまで

の「アートギャラリー名誉館長賞」から名称を改めました。

表彰式では、神崎晋理事長が「旭川荘理事長賞」などを受賞した5人に表彰状と記念品を贈りました。神崎理事長は「いずれも素晴らしい作品。皆さんの活躍の場が広がり嬉しい。今後も立派な作品を制作してください」とあいさつ。「江草安彦賞」を受賞したカレッジ旭川荘の八田隆之介さんは「受賞の知らせを聞いた時は夢かと思った。式に出席して実感が湧きました」と喜びを述べました。

旭川荘アートギャラリーの冬展は同ギャラリーで12月15日から2月29日まで開催しており、受賞作品を含む54点を展示。平日午前9時から午後4時まで、入場無料でご覧いただけます。アクセス・開館日等の詳細は、旭川荘ホームページをご確認ください。

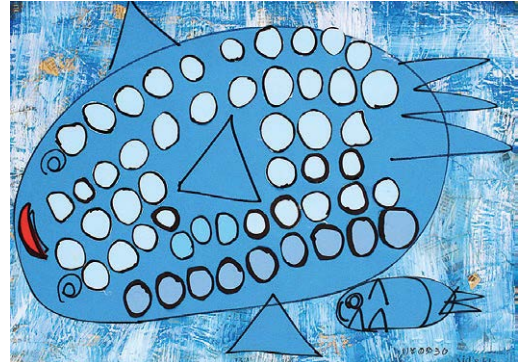
江草安彦賞



「空想生物」

八田 隆之介さん(カレッジ旭川荘)

旭川荘理事長賞



「ジンベエザメとコバンザメ」

磯野 雄志さん(デイセンターあかしや)

岡山県食品卸同業会会長賞



「summer」

近田 敏明さん(あおば)

清水やそし賞



「華やかな竜の神様」

富島 千鶴さん(カレッジ旭川荘)

旭川荘友の会会長賞



「私とワタシ」

吉田 智喜さん(いづみ寮)

特選

- | | |
|------------------------|--------------------|
| モンサンミッシェル | 中山 正光(のぞみ寮) |
| 和風建築 | 中山 正光(のぞみ寮) |
| 記憶の中のわかば寮 | 山本 辰巳(わかば寮) |
| 私の夢のひみつきち | 清原 由美(愛育寮) |
| 私の魚 | 杉本 敦子(旭川児童院) |
| 巨大地震運命の救出 | 物部 紘二郎(望の丘ワークセンター) |
| 平和 | 川村 明日香(竜ノ口寮) |
| ストーンアート・だるま | 菅 規久子(竜ノ口寮) |
| きいろい顔、青い服 | 中桐 郁郎(いづみ寮) |
| 蟲「ムシ」 | 木口 久也(いづみ寮) |
| おにぎり・エビフライ・ハンバーグ・スパゲティ | RIN(津島児童学院) |

お問い合わせ：旭川荘アートギャラリー 岡山市北区祇園866(旭川学園隣) 電話086-275-0131(旭川荘代表)

やまびこまつり 4年ぶりに開催

コロナ過で中止になっていた旭川荘南地区の恒例行事「やまびこまつり」が11月3日、みどり学園、あおば、いづみ寮の3施設合同で4年ぶりに開催されました。

午前中は薄曇りで肌寒さを感じるぐらいの天候でしたが次第に陽も差すようになり、お昼頃には汗ばむような秋晴れの中での開催となりました。

ステージでは、各施設がこの日に備えて練習を重ねてきた楽器演奏や歌、紙芝居などのアトラクションを披露。熱のこもった発表に会場からは大きな拍手が送られていました。まつりの最後には、法被を身にまとった職員の手本に合わせて全員でうらじゃ音頭を踊り、盛大にまつりを締めくくりました。

この他、会場内にはトモニーやみどり学園、あおばが模擬店を出し、フランクフルト、焼きそば、おでん、カレー、唐揚げ、お菓子、ジュース、手工芸品などの商品がテントに数多く並びました。お昼時にはテントの前に商品を買求める人の行列がいくつもでき、予定していた食数は完売する盛況ぶりでした。



やまびこまつりのステージで楽器を演奏する
いづみ寮の利用者

新型コロナやインフルエンザといった感染症の流行が続いていることもあり、今回は以前のような地域の方々をお招きしての開催ではありませんでしたが、たくさんのご家族が来場され、「これぞ、やまびこまつり」といった以前の賑やかさが感じられるまつりとなりました。

(いづみ寮 上原浩揮)

カレッジ生が乗馬体験 厚生専門学院でホースセラピー講習

カレッジ旭川荘で学ぶ若者たちが11月21日、同施設がある結びの杜で乗馬体験会に参加し、馬との触れ合いを楽しみました。

体験会は、旭川荘厚生専門学院の職員でホースセラピーサークルを主宰する上田千恵さんの指導により実施。この日は午前中、同じ敷地にある同学院介護福祉学科

で、初めて授業の一環としてホースセラピー(注★)や介助方法について講習が行われ、受講した学生16人が午後の体験会にカレッジ生のサポート役として参加、交流しました。

カレッジ生35人は1、2年生と3、4年生に分かれ、初めに馬の特徴や触れる際の注意事項、乗馬の方法などの説明を受けた後、希望者が3頭の馬に分かれて1人ずつ騎乗。1年の川口晟さんは「騎乗は小さい時にポニーに乗って以来。馬はとてかわいかった」と目を輝かせていました。その後は全員で馬に人参を食べさせたり撫でたりして交流。最初は触れることを怖がっていたカレッジ生も最後には笑顔を見せていました。

津島児童学院でも10月2日、乗馬体験会が開かれ、小学2年生から中学3年生まで6人の子どもたちが乗馬を楽しみました。



学院の学生に支えられながら
乗馬を楽しむカレッジ生

注★:ホースセラピー 馬と一緒に乗馬などの活動を楽しみながら行い、心身にハンディのある人の日常生活の質や健康の向上を図るもの。バランス感覚がよくなったり、リラックスした表情が見られたりといったリハビリなどの効果が期待できる。

ハッピーハロウィン in あおば

お天気に恵まれた10月24日、あおばで恒例のハロウィンイベントを行いました。利用者の皆さんは朝から張り切って、ドラえもんや魔術師、バナナなど…思い思いの衣装を披露してくれました。

今回は前回好評だったハロウィン・スタンプラリーの第2弾!いつものウォーキングコースにもスタンプのポイントが隠されています。カードにポイントを貯めて、いづみ寮前庭にゴールすると…そこには魔女に扮した矢幡伸世所長。「トリック オア トリート」の合言葉でお菓子を受け取った利用者さんから、たくさんの笑顔をもらいました。



魔女からお菓子をもらいました

その後、ウォーラーに扮した複数の職員の中からお菓子をもつ「モーリー」を探し出すゲームをして、手作りデザートでティータイム。楽しい一日を過ごしました。

(広報委員 池田佳代)

やすらぎ荘でもハロウィンイベント

グループホームやすらぎ荘のハロウィンパーティーを10月26日に開催しました。新型コロナウイルスの影響で行事が縮小されていた2021年10月に、職員が何か楽しい行事ができないかと企画、3回目を迎えました。

今回は9人の利用者さん全員が参加。職員が手作りしたり、持ち寄ったりした衣装を利用者さんにくじ引きで選んでもらい、魔女やうさぎ、カエルやカボチャマン等に変身。大いに盛り上がりました。



職員手作りのカボチャパン

そして3時のおやつは料理上手の職員が手作



いろんな衣装を身につけみんなでポーズ

りしたカボチャパンです。中にはカボチャあんクリームチーズが入っていてとても美味しく、皆さん大喜び。楽しい時間を過ごすことができました。

(やすらぎ荘 宮本真理子)

親和会芸術祭 オンライン開催

旭川荘職員が趣味で作った作品を発表する「親和会芸術祭」が12月1日から15日まで、Google 提供のサービス「Google フォト」を利用して開催されました。オンライン開催はコロナ禍の2020年度(芸術祭は2021年1、2月に開催)に始まり、4回目になります。

出品されたのは絵画や書、手工芸品、写真など計148点。樹脂粘土で作った本物そっくりの多肉植物の寄せ植えや靴下をリメイクした猿の縫いぐるみ、旅情を誘う北欧の街角の写真など、工夫を凝らした個性あふれる力作が掲載されました。

芸術祭は期間中、パソコンやスマートフォンから閲覧、投票ができるようになっていて、得票数に応じて13点が最優秀賞などに選ばれました。



【最優秀賞】
ススキの葉でバッタを作った
長瀬竜加さん(療育・医療センター)の
「葉っぱのバッタ」



【最優秀賞】
武田久美子さん(わかば寮)の
「切り絵」

ふくのいち 大学学園祭に出店 川崎学園と吉備国際大

旭川荘は利用者が手作りした製品を展示販売する「旭川荘ふくのいち」を昨秋、川崎学園(倉敷市松島)と吉備国際大学(高梁市伊賀町)の各学園祭に初めて出店。製品販売を通して、来場者に法人の取り組みを紹介しました。

出店は昨年度、旭川荘の職員採用をPRする学校訪問を機に大学担当者との繋がりができ、提案を受けたのがきっかけ。荘内の行事委員会と就労系事業所が協力して実施しました。

10月21日に開催された「川崎学園祭」の「ふくのいち」では、吉備ワークホームやいんべ通園センターなど5事業所の製品を販売。事務局人事班の職員も参加し、テ



来場者に旭川荘の製品をPR＝川崎医療福祉大学



利用者の感性豊かなアート作品が並ぶ＝吉備国際大学

ントを訪れた学生や教職員らに旭川荘で働く魅力についてアピールしました。

また、11月5日にあった吉備国際大学「伊賀祭」には「ふくのいち」として松山ワークセンターや真庭地域センターなど6事業所が参加。クッキーや木製キーホルダー、ガチャ釣りなどが来場者に好評でした。さらに同大学の学習スペースでは「旭川荘アートギャラリー展」を11月1日から12月19日まで開催。利用者が制作した華やかな色使いの絵画や細部まで丁寧に仕上げた切り絵など計16点が並べられ、学生たちの注目を集めました。



ガチャ釣りが子どもたちに人気
＝吉備国際大学

特注千支飾り5作目 ANA ホテルに納品 あおば

あおばの利用者と職員が12月19日、ANAクラウンプラザホテル岡山(岡山市北区駅元町)に木材や水引などで作った特注の辰年の千支飾りを届けました。

2019年に注文をいただいた子年(2020年)の千支飾りに始まり、今回が5作目。デザインのかわいらしさや丁寧な仕上がり、作業の細かさなどにご好評をいただいています。水引製品に興味を持った同ホテルのスタッフがあおばを訪れた際に、製作している千支の置物を見たことがきっかけでした。

今回は、初めて岡山のもの題材にと岡山城と後楽園をモチーフに選び、テーマは「集(つどう)」。コロナ禍が少し落ち着き、大勢で集まりやすくなってきていること、また、後楽園の「園」は「人々が集まって楽しむ場所」という意味もあり、これまでどおり「集まって楽しむ」ことが当



ANAホテルのスタッフ(右)に千支飾りを手渡す利用者と職員

り前になってほしいという願いが込められています。

千支飾りは奥行35センチ、幅50センチ、高さ25センチのジオラマ風で、ダルマや2種類のデザインの竜25個、木々や丹頂鶴がバランスよく配置されています。ダルマや竜は木材にやすりをかけて色付けしニスを塗り、梅や松の木、鶴は水引のパーツを一から手作り。10人以上の利用者が製作に関わり、それぞれ得意な作業を担当しています。同ホテルは「県外のお客様も多く、地元の名所をモチーフにした今作は岡山PRのきっかけになる」と高評価。あおばの職員は「利用者の力を生かし、これまで以上に作り込んだ。細部までじっくり見ていただきたい」と話しています。

正月はフロントに展示し、その後もホテル内に1年間飾られます。これまでに納品した4つの千支飾りもスタッフルームに大切に飾られています。



たくさんのパーツが配置された千支飾り

安全・安心に集える「ひらたの杜」へ クラウドファンディングで剪定費用募る

ひらた旭川荘は、敷地内にある高木や老朽木などの剪定・伐採を行うための費用を1月31日まで、クラウドファンディング(CF)で募っています。枝折れや倒木などのリスクを排除し、利用者に安全で安心できる生活環境を提供するとともに、地域の貴重な自然環境を守っていくことを目的としています。

県立総合社会福祉センター(1973年発足)を前身とするひらた旭川荘には、20mを超える高木を含め、1000本以上の樹木が生育。敷地内の中央付近にある通称「ひらたの杜」一帯は、利用者の散策や月に1回開催するマルシェ「ひらたの市」の会場として利用されています。

高く伸びた木々は強風による倒木等のリスクが懸念され、加えてサギなどの野鳥の営巣による生活被害も生じており、剪定や伐採などにより樹木の保全を図ることが切実な課題になっています。しかし、諸物価の高騰、老朽化した施設の建て替え等が進行する中、ひらた旭川荘の自己資金だけで改善を図ることは難しい状況にあり、CFに挑戦することになりました。

目標額は300万円。ご支援および詳細はCFサービス



ひらたの杜で毎月開催されるマルシェ

「READYFOR」のサイト
(<https://readyfor.jp/projects/hiratanomori>) を
ご覧ください。

誰もが安全に安心して楽しく集える「ひらたの杜」を創るため、皆様の温かいご寄付をお願いいたします。

(ひらたの杜保全プロジェクトチーム)



リレーコラム

「トさネット」～地域連携～

「トさネット」。これは、私が住む町(トヨド)の寄り合い「トヨドささえあいネットワーク」の略称です。数年前に私の親世代が中心となり、町内会とは別の組織として発足しました。その名の通り「お隣・ご近所さんで支え合おう!最大の防災は地域の絆づくり!」といろいろな活動を行っています。また、トさネット自体も倉敷市社会福祉協議会の方や近所の福祉事業所の方に支えられて活動の幅が広がってきました。

子どもの笑い声と花と緑が溢れる明るい町内の公園が主な活動場所です。夏はラジオ体操や夕涼み会、地震や水害に備えた避難訓練では防災食を作って食べる体験会等が行われています。年の瀬には、子どもたちが「火の用心!」の威勢の良い掛け声とふぞろいの拍子木の音を響かせながら町内を練り歩きます。

地域で活動していると、私たちが子どもの頃に当たり前のよう経験してきたことが、今の子どもたちにとっては特別な出来事なのだと感じる事が多くあります。昨秋トさネットの畑でサツマイモ掘りを行った際の子もた

ちの目の輝きがそのことを物語っていました。

世代を超えたワクワク感や繋がっている・支えられている安心感が更に増すように貢献できればと思います。

(広報委員 藤井出)



秋の清掃活動 祇園地区、ひらた地区



雑草を集めるナカシマプロペラの皆さん
＝祇園地区

ナカシマプロペラの皆さんによる清掃奉仕活動が11月11日、祇園地区で行われました。同社の活動は1995年から始まり、今回が29年目になります。この日は同社の社員約300人と旭川荘の職員や利用者など約80人が参加。北地区から南地区まで複数のグループに分かれて作業にあたり、夏の間に伸びた雑草を草刈り機で刈り、熊手を使って集めるなどして回収しました。

また、ひらた旭川荘でも同日、中電工の皆さんによる秋の清掃活動が行われました。

同社の社員約40人と旭川荘やトモニの職員17人が参加し、高所作業車で樹木の高枝を剪定し、落ち葉を集めるなどの作業に取り組みました。

それぞれ作業後はすっきり整い、過ごしやすい場所になりました。



中電工の皆さんが高枝を剪定＝ひらた旭川荘

ロータリー研究会から お菓子の寄贈

全国のロータリークラブ関係者が集うロータリー研究会から11月22日、旭川荘の子どもたちにお菓子の詰め合わせ120袋を寄贈していただきました。

ロータリー研究会は、日本全国のロータリーの幹部や国際ロータリー会長を招いて毎年開催されており、11月21、22日に神戸市で開催されました。同研究会において、子どもたちの健やかな成長を願って、参加者がお菓子のメッセージカードを添えて袋詰めし、国内の社会福祉施設や子ども食堂を運営する6団体に寄贈するプログラムがあり、旭川荘も寄贈先に選ばれました。

研究会の会場から届けられたお菓子は、旭川児童院、旭川療育園、旭川学園、津島児童学院に配布。各施設の子どもたちは、たくさんのお菓子が詰まった袋を嬉しそうに受け取っていました。



笑顔でお菓子を受け取る療育園の子どもたち

きらぼし★アート展 旭川荘の18点も展示 デイあかしや共同作品が絵画賞

岡山県内の障害のある人たちの美術作品を集めた「きらぼし★アート展」が11月11日から19日まで、赤磐市の桜が丘いきいき交流センター（同市桜が丘東）で開催され、旭川荘の利用者が手掛けた絵画など18点も会場を彩りました。



障害のある人たちの秀作が並ぶきらぼし★アート展の会場

7回目となる今回の展覧会には、絵画、造形、写真の3部門に過去最多の339点の応募があり、一次審査を通過した137点（絵画86点、造形30点、写真21点）が会場に並べられました。



デイセンターあかしやの受賞作
「気球に乗ってゆっくり散歩」

旭川荘からは絵画11点、造形4点、写真3点が展示され、遠足をテーマに富士山やみんなが好きなお弁当、気球で遊覧する人々を立体的なはり絵で表現した、デイセンターあかしやの利用者12人による共同作品（造形）が「絵画賞」に輝き、入賞作17点の一つに選ばれました。

旭川荘ごよみ SCHEDULE CALENDAR	
1月
12日	ご祈念 旭川敬老園
12日	とんど焼き わかば寮・せとうち旭川荘 たかはし障害者支援センター
16日	二十歳を祝う会 旭川荘療育・医療センター
16日	とんど デイセンターあかしや
31日	節目を祝う会 いづみ寮
2月
3日	2年生課題研究発表会 カレッジ旭川荘 ☆節分行事～各施設

編集後記

先日、旭川荘内で開催された医療福祉学会で「ユマニチュード」という言葉を知りました。認知症の人とのかかわりの中で「同じ目線の高さ」「いきなり用件を切り出さない」「返事を待つ」などを通して「あなたを大切に思っています」と相手に伝えるコミュニケーション技術のことです。支援の場や普段のコミュニケーションの場において、初心に帰り大切なことを思い出すことができました。

（広報委員 川本大輔）